

令和6年度 志井幼稚園 自己評価結果の総括表

本園の目指す子ども像

○元気に挨拶ができる子ども ○思いやり、やさしさのある子ども ○人の話を聞き考えて行動できる子ども ○強くてたくましい子ども ○豊かな表現ができる子ども

重点目標	評価項目	評価指標及び評価結果						コメント 評価結果に関する説明・意見書	
		基準	取組指標	取組結果	基準	成果指標	成果結果		総括評価
自然と関わり、遊びを豊かにする保育の展開	振り返りの充実による指導計画の改善	4	振り返りの記録を定期的にまとめて、指導計画を改善する。	2.4	4	担任を中心に全職員の協力体制が進むようになった。	2.4	C	<ul style="list-style-type: none"> ・自然と触れ合う機会を多く設けながら・虫探しをしたり、花びらを使って色水遊びをしたりすることから始めていき、その姿を日々・月・学期ごとに記録していった。 ・教師と一緒に草花や虫などの色や形にも興味をもち収集したり砂場遊びに用いたりしていた。色水遊びを通して色別や色を混ぜ合わせて変化を楽しむ姿も見られるようになった。 ・クラスの中には、虫や砂などに触れることに抵抗がある子どももいた。個別に対応し楽しさや不思議さを伝えていきたい。
		3	振り返りの記録から、自らの指導と幼児の学びとのかかわりを捉える。		3	幼児が自然の変化に興味を示し、自分たちの遊びに取り入れるようになった。			
		2	幼児が自然と触れ合っている姿を記録し、幼児の興味関心を捉える。		2	幼児が自然の事象や変化に気づき、表現したり伝えたりするようになった。			
		1	自然に関わる遊び等を保育に取り入れる。		1	幼児が自然の事象や自然の様子を見るようになった。			
積極的に園外研修に参加し学びを広げる	園外研修への参加実績と成果の活用	4	保育の中で実践したことを、園内研修で報告する。	2.8	4	園外研修の報告で聞いたことを、自分の保育に生かそうとするようになった。	2.8	C	<ul style="list-style-type: none"> ・実践に役立つわらべ歌の研修などには参加した。 ・研修で「嬉しい保育を」というのを学び、子ども達を誉める時に「先生もうれしい!」という言葉を掛けるようにした。 ・支援のいる子には視覚表示が有効であるためクラスの中で実践した。すると支援を必要とする子だけでなくクラス全体がその表示を見て見通しを立て、行動するようになった。 ・全体の研修には参加したが、その他の研修への参加は難しかった。次年度は積極的に参加を促すように努めたい。
		3	研修で学んだことを、保育の中で実際にやってみる。		3	提案されたことを、自分もやってみようようになった。			
		2	研修で学んだことを記録で報告する。		2	園外研修の報告を、興味をもって聞くようになった。			
		1	園外の研修会に参加する機会を設ける。		1	園外研修に参加するようになった。			
働きかけをする	家庭との連携を密にする	4	幼児の良さや育ちを保護者に伝え、成長を実感し見通しが立つようにする。	2.8	4	保護者が幼児の姿を前向きに捉え、幼児の育ちに気づいたり教師に伝えたりするようになった。	3.4	B	<ul style="list-style-type: none"> ・できなかったことができるようになったことを降園時や電話連絡、個人面談等で保護者に伝え共有していった。 ・専門機関に繋げることでどのようなサポートをしたらよいかなど知ることができた。 ・専門機関から受けた助言を保育に取り入れていったことで、次のステップアップへ見通しが立つようになった。 ・保護者と共通理解を図ることで、信頼関係が深まり仕事に対してもやりがいを感じることもできた。
		3	保護者の了解を得ながら、専門機関と連携し共通理解を図る。		3	関係機関、保護者、園が共通理解をもち、幼児の成長を支え合った。			
		2	保護者から発達の状況や家庭での様子を聞きとり幼児の課題や今後の方向性について共通理解を図る。		2	教師は保護者の悩み等をよく聞き、信頼されるようになった。			
		1	登降園時に保護者との連絡を具体的に進める。		1	教師は、保護者の気持ちになって幼児の育ちを伝えるようになった。			

☆取り組みと成果に関する評価結果 A とても良い B まあまあ良い C 普通 D 良くない (再検討)

○ 総合的な評価結果

評 価	理 由
C	<p>* 志井幼稚園の目指すもの 『幼稚園は環境を通して思う存分遊び、豊かな実際の経験を繰り返しながら、生きる力の基礎を育むところです』*</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今回の志井幼稚園の自己評価において、教師の目指すべき子ども像はほぼ達成できている。 ・ 重点目標の一つに挙げた自然と関わりながらの保育の展開については、広い園庭で伸び伸びと身体を動かすことを好む子どもや固定遊具などに興味を示す子どもがいるため思うような結果が出ていない。 ・ 園外研修に参加については、仕事量の多さや気持ちの余裕がなく思うように参加できていない。次年度は、教師の資質の向上を図るため積極的に研修参加に努めたい。 ・ 家庭との連携については、教師 1 人ひとりが保護者との連絡を密にとり、子どもの育ちを共有理解できていた。

○ 今後、取り組む課題

	課 題	具体的な取り組み方法
1	教師の資質、保育内容の向上を図る	研修への参加体制の充実を図り、内容を園内に還元する。
2	安全に対する意識向上を図る。	安全点検や教師・子どもの安全に対する対応力を高める。

○ 学校関係者の評価

- ・ 子どもの成長過程を保護者の方と共有できる姿を総括表で確認させていただきました。
日々、仕事量の多さなどで大変だと思いますが、これからも子どもさんの育ちをサポートしていただければと願っております。
- ・ 成果指標を見ると、よく取り組まれていると思うのに、総括評価で C が多いのが気になります。
A・B の総括評価でも良いのではないかと思います。
- ・ 園児の安全を第一に考え、行動していただけた点が素晴らしかったです。(行事の中止・延期やバスの閉じ込め対策等)
ただ中止にするのではなく、園児の学びや思い出の場を極力減らすことのないよう実施していただけたと思います。
連絡アプリ導入などに見られるDX化も進み職員、保護者の円滑な利用に貢献できたと思います。
ただ、一部の保護者を対象とする連絡について不十分な点があり、改善の余地がありました。
教師の皆様は、一人ひとりの園児をよく観察し、何かあった際はすぐに保護者へ連絡するなど、よく連携ができていたと思います。
- ・ 目指す子ども像、重点目標を全職員で共通理解し、同じベクトルで指導を行っていることが分かりました。
小学校も幼稚園と指導計画等を共有し、連携して指導を行っていくことが重要であると感じます。来年度もよろしく申し上げます。